

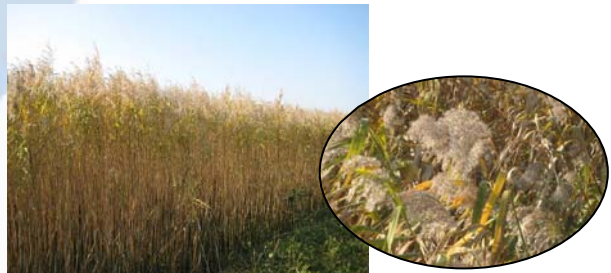
「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」通信 vol.1

すっかり秋が深まってきました。世間では新型インフルエンザが猛威をふるっています。私も、不覚にも感染してしまい、一週間寝込んでしまいました。みなさんも十分お気を付けてください。

ヨシ原の風景

画像は、西の湖安土側のヨシ原風景です。
ヨシの穂が広がり、風にたなびく風景は
こころ休まります。ずいぶん葉が落ち
上部の葉と穂だけになってきています。
これから、寒さと共に枯れて行き
12月中旬をすぎると更に葉が落ち穂だけ
になり、いよいよ
ヨシ刈りシーズンの到来です。

(11月中旬撮影)



ヨシのまめ知識

アシとヨシのちがい・・・

昔は、アシと呼ぶのが一般的でしたが、アシは「悪し」と同じ響きなのを嫌い、商いに「善し」に通じるヨシに変わったということだそうです。

びわ湖の周辺ではアシはオギ（荻）という植物を意味しており、ヨシ原に混じって生えていることが多く、ヨシと非常によく似た植物です。

見分け方は、穂が違っており、ヨシは茶褐色、オギは銀白色でススキのような穂を付けます。また、茎の内部が空洞なのがヨシ、内部がつまっているのがオギと地元の方に教えて頂きました。

一度ヨシ刈りに参加されたとき見比べてみてはいかがでしょうか。

ヨシの穂



オギの穂

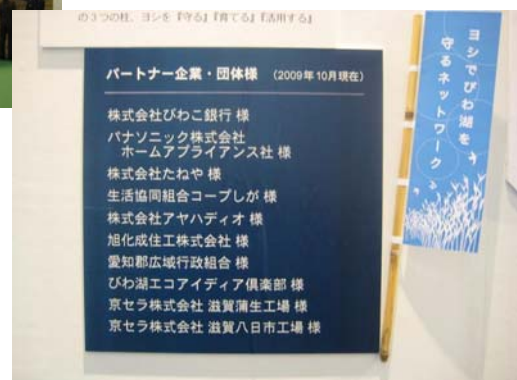


リエデンコーナー 1

10月21・22・23日に開催された
「びわ湖環境ビジネスメッセ2009」
のリエデン展示風景です。

実際のヨシを店内一面に貼り付け
仲間の広がり、商品広がり、素材の広がりを
テーマに展示を行い、多くのお客さまに
ご来店頂く事ができ、大盛況となりました。

画像は、パートナー企業・団体様をご紹介
させて頂いたパネルです。



リエテコーナー 2

～ヨシ100%紙への挑戦～（ヨシ紙開発話し：開発グループ）



“ヨシだけで紙を作るなんて無理だよ。繊維がまとまらない”
製紙会社の衝撃的な言葉にも屈せず頼み込み、なんとかチャレンジを開始しました。
印刷がのらない、2枚にはがれる、カールするなど課題は山積み。ヨシの繊維は木材に比べ細く短いため、ヨシのない柔らかい紙になってしまうのです。かといって、ガチガチに固めてしまうとヨシのやさしく暖かみのある風合いが損なわれてしまいます。名刺は、その人を印象づける大切なもの、受け取った瞬間に指先で感じる質感にもこだわっています。
何度も作戦会議とテストを繰り返し乾燥温度や圧力、薬品などを変え、やっとの思いで完成にこぎ着けた正真正銘のヨシ100%のヨシ紙は渾身の逸品です。
苦労の分だけ完成の喜びもひとしお、現在も、新しい紙の開発に製紙会社さんと取り組んでいます。



《問題》 びわ湖の面積は約何 $k m^2$ でしょうか。

- ① 570 $k m^2$
- ② 670 $k m^2$
- ③ 770 $k m^2$
- ④ 870 $k m^2$

（第1回びわ湖検定 問題と解答より）

お知らせ

※※今シーズンのヨシ刈りボランティアは2010年2月13日（土）に西の湖（安土側）で行われます。
現在、地元の方と詳細を詰めており、内容が決まり次第お知らせ致します。



【びわ湖を知る解答】 ②

びわ湖は670 $k m^2$ で日本で唯一「大湖」とよばれる淡水湖です。

【編集後記】

当社がヨシを通じた環境活動を初めてちょうど2年が経過しました。おかげさまで、長浜で開催されたびわ湖環境メッセ会場では、ヨシに興味をもって頂けるお客さまが随分増えたことを肌で感じました。改めて、びわ湖の環境（滋賀の環境）を考えたとき、ヨシという植物の環境への影響力、大切さを実感しています。

ネットワーク通信は、このヨシを中心にした情報を提供させて頂き、みなさまに興味を持って頂ける内容を掲載して行きたいと考えています。

まだスタートしたばかりのネットワーク活動です。地味な活動ですが継続する事が大きな力になると思います。

これからもネットワークのみなさまとの繋がりを大切するため、定期的に通信を発行させて頂きます。宜しく願い致します。 太田